

平成30年度小田原市スポーツ推進委員5月全体研修会

日時：平成30年5月13日（日）午前10時から午前11時まで（60分）

場所：小田原アリーナ 1階 研修室

テーマ：「地域でのコーディネーターとしての役割」

関東学院大学名誉教授

小田原市スポーツ推進審議会副会長

社会福祉法人磯子コスモス福祉会理事長

鈴木 秀 雄

（余暇教育学・体育学博士、Ph. D.）

I. 諸概念の繙きから

1. 小田原市のスポーツ振興基本計画 標語：動かそう、あなたの体、スポーツで！
有史以来、生命維持に求められてきた省エネモードとしての人間行動
現代社会での健康寿命の延伸に求められる身体運動(至適運動＝セラエクサ®)としての積極的モード
面白さと楽しさの違いとその創造と工夫 ←（活動を起こし、その継続に必要な要素）
2. レジャー・レクリエーション・スポーツ（参考資料1）
三語の概念理解とそれらの関係
3. 体育とスポーツとの異なり（＝対蹠要素 例：日本とウルグアイは対蹠地の関係）. . .（参考資料2）
4. 健康の三要素に見る「栄養、休養、運動」のそれぞれの意味
生理的必要性（physiological needs）と心理的欲求（psychological wants）
積極的な運動の発生の仕組み（メカニズム）2つ（以下の①）
①興味・関心から発生＝目的的、②健康・体力の課題や不安からの発生＝手段的

II. 期待される「地域でのコーディネーターとしてのスポーツ推進委員の役割」

1. スポーツ振興法（1961年）体育指導委員インストラクター的役割
スポーツ基本法（2011年）スポーツ推進委員コーディネーターの役割
2. コーディネーターの意味
各部を調整し、全体をまとめる . . .プロモーター（発起人、世話人）でもある
コーディネートを、服装の調整、アクセサリ着用における考え方からの確認
3. コーディネーターとしてセルフケア行動を考える
「何故」出来ないかではなく、「どうしたら」できるか
まず、子どもから高齢者まで生きる上で絶対的に必要である「運動」そのものの理解から始まる
面白さと楽しさの創造と工夫（前出）
人間関係の構築（縦横のつながり）.事例：
地域の財（人、物、金、組織等）の発掘と活用
4. 2020年のオリンピックレガシーに関連して
むしろ「地域でのレガシーづくり」が大切⇒地域貢献、社会参加、ボランティアマインドの育成
みんなのスポーツ（sports for all）ではなく、みんなにスポーツ（sports toward all）の考え方
地域の特徴や特性を洗い直し、コミュニティスポーツ（地域スポーツ）として考える